

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	四天王寺大学短期大学部
設置者名	学校法人 四天王寺学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	保育科	夜・通信	0	0	10	10	7	
	生活ナビゲーション学科 ライフデザイン専攻	夜・通信		0	8	8	7	
	生活ナビゲーション学科 ライフケア専攻	夜・通信		0	0	8	8	7
(備考) 新課程(令和元年度入学生より)・旧課程(平成30年度以前入学生)の単位数を纏めて記載								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPによる公開 http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/department/syllabus/tan2019.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	四天王寺大学短期大学部
設置者名	学校法人 四天王寺学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPによる公開 http://www.shitennoji.ac.jp/board_member.pdf
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	近鉄グループホールディングス（株）相談役	2018.6.22～ 2021.6.21	経営知識に優れた高度な立場からの法人経営に関する助言を行う
非常勤	（宗）四天王寺責任役員執事	2018.6.22～ 2021.6.21	宗教法人役員立場から法人経営に関する助言を行う
非常勤	（宗）四天王寺責任役員執事	2018.6.22～ 2021.6.21	宗教法人役員立場から法人経営に関する助言を行う
非常勤	（株）日経サービス代表取締役 会長	2018.6.22～ 2021.6.21	経営および業務の有効性・効率性の向上に関する助言を行う
非常勤	うめだ速見法律事務所 弁護士	2018.6.22～ 2021.6.21	①コンプライアンスや経営方針、業務ルールの遵守のための助言を行う ②リスクマネジメントに関する助言を行う
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	四天王寺大学短期大学部
設置者名	学校法人四天王寺学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)作成にあたり、『シラバス作成ガイドライン』を全教員に配布し、さらに教職員研修会において「シラバスの作成方法」の研修を行い、理解を深めている。</p> <p>各授業科目については、学則上の位置づけおよび「学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)等を再確認のうえ、記載内容(授業概要、到達目標、授業計画、目標達成のための授業方法・履修上の注意事項、授業時間外に必要な学習、成績評価の方法、など)について検討し、シラバス作成を行うよう依頼している。</p> <p>シラバス作成後は、担当教員以外の第三者による組織的なシラバスチェックを行うため、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員によるシラバスの内容チェックを行い、教育の質保証に取り組んでいる。</p> <p>作成及び公表時期については、11月から12月にかけて授業計画(シラバス)を作成し、1月から2月にかけてFD委員によるシラバスチェックを行い、修正後3月末に公表を行っている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>HPによる公開</p> <p>https://ibunet.shitennoji.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>『単位認定の方針について』</p> <p>「単位の修得および試験に関する規程」の成績評価について(第11条-13条)において、試験方法・成績評価方法・基準(秀・優・良・可・不合格)等を定め、履修要覧に掲載し学生に明示している。</p> <p>シラバスには、各科目の成績評価方法等を具体的に掲載し、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与を行っている。また、学修意欲の把握については、本学で独自に設定したものとして担当教員の入力による出席状況を学修意欲の目安としている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

「四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部GPA制度に関する規程」において、学期GPA、年度GPA及び累積GPAの算出方法を定め、HPに掲載し学生に明示している。

各学期終了後に保護者宛に成績表を送付しているが、各学期の学期GPAと累積GPAを記載し、お子様の学修状況をご確認して頂き、修学支援を促している。学科(専攻)における修得単位数の分布状況も送付し、学科(専攻)におけるお子様の単位修得状況の位置づけをご確認して頂いている。なお、学科(専攻)における修得単位数の分布状況は、学外ホームページにて公開し、学生自身も学修状況を把握できるようにしている。

学期GPAの数値の分布状況は、教務委員会で各学科(専攻)の教員に周知し、学生指導に役立てる予定である。

【GPAの算出方法について】

評価	秀	優	良	可	不合格
GP	4	3	2	1	0

学期GPA = (当該学期の履修登録科目のGP × 当該科目の単位数) の合計
 / 当該学期の履修登録総単位数

年度GPA = (当該年度の履修登録科目のGP × 当該科目の単位数) の合計
 / 当該年度の履修登録総単位数

累積GPA = (在学全期間の履修登録科目のGP × 当該科目の単位数) の合計
 / 在学全期間の履修登録総単位数

- ・認定科目や評価が未確定または保留の授業科目については、GPAの算定対象外とする。
- ・再試験、追試験または再受験が発生した場合、当該科目については再試験、追試験または再受験で得た成績評価をGPA算定対象とする。
- ・再履修により単位を修得した授業科目については、再履修によって得た成績評価と単位数をGPA算定に算入するものとする。なお、当該科目について過去に得た成績評価および単位数はGPA算定から除外しない。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

・HP【情報公開 (IBU 教育研究情報)】に公表
http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/taiouhyou/file_06_01/4-36_gpa.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学の教育使命、養成すべき人物像、そのために求められる教育の基本姿勢を受けて、短大全体および各学科・専攻において「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」を定めている。さらに、ディプロマ・ポリシーに基づき、『卒業時点において学生が身につけるべき能力』および到達目標を定め、基礎教育科目・共通教育科目・専門教育科目の各科目に明示している。履修要覧・ホームページに掲載することで学生が2年間を通して計画的に学ぶことができるよう取り組んでいる。

また、各学科等で定められた卒業要件について、個々の学生が到達しているかを教授会で審議し、卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

・HPに公表
http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html#d_tan
 ・履修要覧に掲載

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	四天王寺大学短期大学部
設置者名	学校法人 四天王寺学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/30taisyaku.pdf
収支計算書又は損益計算書	http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/30shikin.pdf
財産目録	http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/30zaisan.pdf
事業報告書	http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/30jigyo.pdf
監事による監査報告(書)	http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/disclosure/other/30kanji.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:) 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 学校法人四天王寺学園 中長期計画 対象年度: 2015年~2022年)
公表方法: http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/mediumplan.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページ http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/disclosure.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページ http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/disclosure.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保育科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより公表 http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/idea/data_cg.pdf ）
（概要） 【保育科】 保育科は、聖徳太子の仏教精神をもとにした仏教保育の理念と方法を体得し、人間性豊かで慈愛に満ち、受容性と共感性に富む、保育実践力及び社会援助技術の基本を身につけた保育者養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより公表 http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html ）
（概要） 【保育科】 保育科は、聖徳太子の仏教精神をもとにした仏教保育の理念と方法を体得し、人間性豊かで慈愛に満ち、受容性と共感性に富む保育実践力の基本を身につけた保育者養成を目的とします。グローバルな視点が必要な現代社会における保育者の役割を自覚し、仏教保育の理念を理解したうえで、子どもや保育に関する基礎的・基本的な知識の理解と、適切な思考・判断・技術に基づいた保育実践力を身につけることを目指します。 このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の 3 点とします。 1) 慈愛に満ちた保育者として保育現場で活躍できる人格形成 仏教保育の理念と方法を体得し、受容性と共感性に富む慈愛に満ちた保育の実践者として、子どもの成長と共に自らの人格形成を目指すことができる。 2) 保育者として幅広い教養と専門的・実践的な知識および表現・技術の獲得 保育や子どもとそれらを取り巻く社会情勢に関心をもち、保育技術の向上や新たな知識の獲得に意欲的に取り組み、保育や幼児教育、福祉、また子どもや子育てに関する知識を理解し、子どものあそび・表現活動にかかわる基礎的な技術力を身につけるとともに保育現場における適切な表現・援助の方法を体得している。 3) 自己表現力・コミュニケーション能力および課題解決能力の修得 保育現場で起こる課題に対して、適切な判断を下すことができ、コミュニケーション能力を発揮して臨機応変に保育を展開することができる。さらに、自らの保育実践を省みて新たな課題を設定することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより公表 http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html ）
（概要） 【保育科】 (1) 教育課程の編成、教育内容 保育科は、幼稚園教諭 2 種免許状および保育士資格の取得を基本的な考えとします。「保育実践演習 I～IV」を中心に、保育の本質を捉え、仏教保育の理念に基づいた子ども観や保育観を基礎とした専門的な実践力を身につけることができるように、系統的に分類した 6 つの科目群について、基礎・基本から応用・発展へ、また、確実な知識・技術の修得から課題解決力を培う探求型の学修態度の育成へと、確実に保育実践力を自ら身につけていくことができるように、各専門科目を年次配置します。

- 1) 保育の本質や意義、保育制度や歴史、保育者の役割に関する科目群には、「保育者論」「保育原理」「教育原論」「社会福祉」などの科目を配置。
- 2) 心理学に基づいた子どもの発達や家庭支援の基礎理論に関する科目群には、「保育の心理学Ⅰ」「子どもの保健」「子ども家庭支援論」「在宅保育」などの科目を配置。
- 3) 保育内容（領域別の理論と実践）・方法に関する科目群には、「幼児教育課程総論」「保育内容総論」「子育て支援」などの科目を配置。
- 4) 保育に必要な表現技術・基礎技能を身につけるための科目群には、「音楽Ⅰ～Ⅳ」「図画工作Ⅰ～Ⅱ」「小児体育Ⅰ～Ⅱ」などの科目を配置。
- 5) 学外実習での課題解決に関する科目群には、事前・事後指導を含む学外実習などの科目を配置。
- 6) 仏教精神を核に、慈愛に満ち、現代の保育課題に対応できる保育者を育てるための本学独自の科目群には、「仏教保育論」「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」「保育探究演習」などの科目を配置。

(2) 教育方法

- 1) 具体的な保育事例やICTの活用を通して、保育への興味や関心を高め、専門的な知識の理解力や課題把握・解決力が身につくような授業を実施します。
 - ・基礎知識や理論に関する科目については、聞く力・書く力を大切に、授業規律の徹底を図ります。
 - ・理論や技術の応用や発展を目指す科目については、グループワーク等を通して協調性を育みなら、話す力や問題解決能力が身につくような授業を実施します。
- 2) 個人差の大きいピアノ演奏能力については、大学入学前から「ピアノ初心者向け基礎講座」を開催します。入学後も個人指導を行います。
- 3) 異学年交流や地域の保育現場と連携したアクティブ・ラーニングによる教育を実施します。保育実践力を身に付ける意欲を高め、慈愛に満ちた保育者としての態度を培うことができるよう、保育科全教員がティームティーチング制で指導にあたり、学生の学びを推進します。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 上記に示した教育課程における学修成果の評価については、各科目の特性に合わせて、筆記試験や実技試験、課題の提出やレポート作成による多様な評価方法により、基礎的な聞く力や書く力等の学修態度も含めて評価します。
- 3) 慈愛に満ちた保育者としての資質・態度を身につけるために、授業への出席回数をはじめ、グループワークや発表などへの参加度、グループで作成するワークシートも評価のひとつとして取り入れます。
- 4) ピアノ技術力については、個人差が大きいいため、ルーブリックによる評価を行います。
- 5) 保育科の核となる「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」では、毎回の授業で作成するワークシートと各セメスターの最後にまとめるレポートによって構成される学修ポートフォリオによる評価をセメスターごとに行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより公表

<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html>)

<p>(概要)</p> <p>【保育科】</p> <p>保育科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育や子どもに対する学びへの興味・関心が高く、慈愛に満ち、将来、保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）となる意志が明確なこと。 〔求める要素：関心・意欲・態度、表現力、主体性・多様性・協働性〕 2) 将来、保育現場で、子どもの援助だけではなく、子育て支援等における保護者への支援の基礎となるコミュニケーション能力や自己表現力を、仲間と協調して高めようとする姿勢のあること。 〔求める要素：関心・意欲・態度、表現力、主体性・多様性・協働性〕 3) 保育現場で要求される保育技術、特にピアノ演奏についての能力の獲得意欲のあること。 〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能、表現力、主体性・多様性・協働性〕 4) 高校生活全般を通して自分の知的好奇心を育てながら、高等学校で学ぶ基礎学力（特に国語）および音楽に対する基本的な知識を身につけていること。 〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能、主体性・多様性・協働性〕

<p>学部等名 生活ナビゲーション学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより公表 http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/idea/data_cg.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>【生活ナビゲーション学科】</p> <p>生活ナビゲーション学科は、建学の精神である聖徳太子の仏教精神とそれに基づく学園訓の見地より、誠実・礼儀・健康を心に留め、自己と他者が調和し共に社会貢献する人格形成に努め、幅広い教養を身につけることを教育研究上の目的とする。それを具現化するため、自らのキャリアデザインを描き、社会経済状況の動向に関心を持ち、必要な専門的知識や技術を修得することを目的とする。</p> <p>【生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻】</p> <p>生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻は、建学の精神に基づき、和の精神を持つ、豊かな人格形成・修養に努め、生活全般からビジネスにいたるまでの幅広い教養と実務的な専門性を備えた社会に貢献できる人材の養成を目的とする。</p> <p>【生活ナビゲーション学科ライフケア専攻】</p> <p>生活ナビゲーション学科ライフケア専攻は、建学の精神である聖徳太子の仏教精神とそれに基づく学園訓の見地より、誠実・礼儀・健康を心に留め、自己と他者が調和し共に社会貢献する人格形成に努め、幅広い教養を身につけることを教育研究上の目的とする。それを具現化するため、主体性・協調性・倫理性を基礎に、介護実践に必要な専門的知識と技術を修得することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより公表 http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html）</p>

(概要)

【生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻】

生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻では、建学の理念である聖徳太子の仏教精神とそれに基づく学園訓の見地より誠実・礼儀・健康を心に留め、豊かな教養と実務的な専門性を備えた、グローバルに活躍できるビジネスパーソンを育成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。

- 1) 建学の精神に根ざした人格形成
聖徳太子の仏教精神を理解し、和の心を持つ人格形成修養を基に、社会に貢献できるビジネスパーソンとしての能力が培われている。
- 2) キャリアプランを自ら描く能力の修得
社会状況に関心を持ち、積極的にチャレンジし、8つのフィールドと23のユニット科目での学びにより、新たな資格を取得している。更に、卒業後、生涯にわたるライフプランとキャリアプランを自らデザインし、描くことができる。
- 3) 社会で求められるビジネスパーソンとしての基礎力の修得
基礎学力をはじめとし、フィールド・ユニットでの専門知識・技能、社会人基礎力を修得している。

【生活ナビゲーション学科ライフケア専攻】

生活ナビゲーション学科ライフケア専攻は、質の高い介護福祉サービスを提供できる介護福祉士の養成を基本とし、実社会で求められる社会人基礎力を育みます。あわせて、その目的の達成に向けて何事にも主体的に取り組むことができる人材の養成を目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の4点とします。

- 1) 建学の精神に根ざした人格形成
建学の精神である聖徳太子の仏教精神を理解し、和のこころを尊重し人との関わりをとおして他者と共感することができる。
- 2) 総合的な知識や技能の修得
介護を必要とする対象を理解し、介護ニーズや介護に関連する制度・サービスにグローバルな視野をもって対応できる専門知識・技術を修得する。
- 3) 高い専門性の獲得
高い倫理性を持って、介護過程に基づく尊厳を支える個別ケアの実践能力を体得し、生涯にわたり学習を継続することができる。
- 4) 問題解決能力の修得
社会全体のできごとに関心をもち、対象者の生活をトータルに考えられる姿勢を身につけると共に、チームの一員として行動することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより公表
<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html>）

(概要)

【生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻】

(1) 教育課程の編成、教育内容

生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻は、教育課程の編成と実施については建学の理念の土壌に育つ樹木とその実りをイメージしています。これまでに育まれた人間性と基本的生活習慣、基礎学力、社会人基礎力を基に、「ライフデザインゼミナ

ールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「キャリアの基礎Ⅰ・Ⅱ」「キャリアデザイン」「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を幹に、枝になる実をイメージして、専門科目の『ビジネス』『情報』『フード』『ファッション』『インテリア』『健康・ビューティ』『ブライダル』『観光』の8つのフィールドを配しています。各科目は、知識を理論的に学び、それらを実践的な演習・実習により定着させ、さらに学びの集大成として各種資格を取得できるように開講します。

- 1) 社会で働く心構えを始めとして、さまざまなビジネス環境で求められる仕事の基本を学び、医療事務の知識や良好な人間関係を築く方法なども学ぶために、ビジネスフィールドの科目群を配置します。
- 2) 社会に出て必要とされるICT・IoTなどについての知識を深め、技能を身につけ、情報リテラシーを学び、必要な情報を的確に集め、整理し、活用する力を養うために、情報フィールドの科目群を配置します。
- 3) 食品の栄養や調理法、食空間の演出、行事食を通じた食文化などについて学び、更に実習で料理や製菓の楽しさを知り、技術を身につけ、健康を支える食生活を実践する力を養うために、フードフィールドの科目群を配置します。
- 4) 素材やデザインについて学び、健康で快適な衣服の知識を身につけ、個性を表現するための感性を養い、パターン製図やソーイングなど基本的な技術を学ぶために、ファッションフィールドの科目群を配置します。
- 5) 生活の中にある雑貨や家具などのインテリアについて学び、空間をイメージしてデザインする力を養い、色彩についての基礎的知識を身につけ、コーディネートする技術を学ぶために、インテリアフィールドの科目群を配置します。
- 6) 肌や爪の生理学を学び、メイクやネイルの技術を身につけ、健康で美しい身体を作るための知識と技術を実習・演習を通して学ぶために、健康・ビューティフィールドの科目群を配置します。
- 7) 婚礼の歴史や慣習などについて学び、プランニングや司会法などブライダル業界で必要なスキルを身につけ、ブライダルフラワーの技術を学ぶために、ブライダルフィールドの科目群を配置します。
- 8) 基本的な英語力を身につけ、異文化について学び、茶道・華道を通して、日本の伝統文化について理解を深め学ぶために、観光フィールドの科目群を配置します。

(2) 教育方法

- 1) 「ライフデザインゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「キャリアの基礎Ⅰ・Ⅱ」「キャリアデザイン」「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」では、2年間をかけて、社会人基礎力を中心に社会で求められる基礎的な力を積み上げ身につけます。
- 2) 「ビジネス」「情報」「フード」「ファッション」「インテリア」「健康・ビューティ」「ブライダル」「観光」の8つのフィールドは、Semesterの半年間毎に自分の興味・関心により科目を選択し、見直しながら学修します。同じフィールドを選択することで学びを深めることや、フィールドを変更し学びの幅を広げることなど、より自分にあった学修プランを作り、学ぶことができます。
- 3) 各科目は、理論的に知識を学び、多くの実習・演習を通して、実践的な知識と技術を身につけ、学びの集大成として各種資格を取得することを目標とします。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

- 2) 科目の特色に応じ定期試験、小テスト、課題提出などにより評価します。アクティブ・ラーニングとして行うグループワークや発表などの学修態度や意欲も含め、総合的に評価します。
- 3) 実習・演習では、実践での学修態度を重視し、評価します。制作した作品や課題について、制作マップや実習ノートなど完成に至るまでの過程や、制作発表時のプレゼンテーションボードなども含め、総合的に評価します。
- 4) 各種資格の取得は、学修の目標、意欲、成果として位置付け、評価します。

【生活ナビゲーション学科ライフケア専攻】

(1) 教育課程の編成、教育内容

生活ナビゲーション学科ライフケア専攻は、介護福祉士国家試験受験資格の取得を基本として編成しています。さらに介護の本質を理解し、対象の身体的、精神心理的、社会的側面から総合的にアプローチできる実践力および社会人力の修得を目指しています。これを達成するために、次の4領域を設定するとともに、人間性豊かな人材を育成するため総合的に幅広く介護実践の専門分野を理解し深め、介護を学ぶための人材育成する科目として「ライフケア演習Ⅰ～Ⅳ」を配置します。

- 1) 『人間と社会』の領域では、人間の尊厳と自立、コミュニケーションの基礎を学び人間理解を深め、介護保険制度、障害者総合支援制度、また社会を理解するために「ケアの本質」、「現代社会と福祉Ⅰ・Ⅱ」等の専門科目、「仏教概説」「現代社会と人権」の基礎教育科目「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」「レクリエーション論」の共通教育科目を配置します。
- 2) 『介護』の領域では、介護の基本を学び、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護過程の展開と、学外での介護実習によって介護を総合的に理解し、かつ実践力を修得するために「介護福祉論」「コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ」「日常生活援助技術Ⅰ・Ⅱ」さらに、「介護過程総論及び各論」「介護実習指導」「事例研究」等の科目を配置します。
- 3) 『こころとからだ』の領域では、介護を必要とする対象のこころとからだのしくみ、高齢者・認知症の介護を学ぶために「身体の構造と機能の理解」「医学概論（老年）」「高齢者の日常生活」また、「医学概論（認知症）」「認知症の介護と支援」等の科目を配置します。
- 4) 『医療的ケア』の領域では、医療的ケアを必要とする対象の身体的、精神心理的、社会的側面について理解し、喀痰吸引・経管栄養の基本的な手技を習得します。
- 5) 上記4領域を超えて総合的に幅広く介護実践の専門分野について履修するために、「ライフケア演習Ⅰ～Ⅳ」を配置します。

(2) 教育方法

- 1) 建学の精神に根ざした人格形成および社会人基礎力については、和の精神Ⅰ・Ⅱでの瞑想・写経を土台とし、ライフケア演習Ⅰ～Ⅳによる、高齢者・障害当事者との交流、また、卒業生、他分野の外部講師による講義、演習、フィールドワークの体験、1・2回生合同実習報告会への参加によって修得していく。
- 2) 介護福祉士国家資格取得を目標とし、学内における専門科目の講義と演習・実習によって基本となる科目を履修する。
- 3) 学外で実施される3回の介護実習参加では、毎回、自らが実習計画書を立案し実習に臨む。そして、実習終了後は施設毎と、学内（全体）での報告会により成果を発表するというプロセスをとおして、総合的な知識や技術の習得、高い専門性の獲

得、問題解決能力の習得を目指す。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーを基に評価する。
- 2) 社会福祉振興・試験センターが実施する介護福祉士国家試験による評価。
- 3) 学外で実施される3回の実習評価（レベルⅠ前半・後半・訪問介護・レベルⅡ）は、実習段階ごとの評価基準に基づき施設実習担当職員と巡回担当教員、学生の自己評価を総合して評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより公表

<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html>）

（概要）

【生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻】

生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 豊かな教養と専門性を備え、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンになることを目指すこと
（求める要素：思考力・判断力、表現力）
- 2) 自らのライフプランとキャリアプランを描くため、自分の将来像や仕事のイメージ作り、適職探しに興味を持つこと
（求める要素：主体性・多様性・協働性）
- 3) 仕事に必要なビジネス関連知識を修得し、各種資格取得を目指すこと
（求める要素：知識・技能）
- 4) コミュニケーション能力を高め、物事に積極的にチャレンジする熱意のあること
（求める要素：関心・意欲・態度）
- 5) 高等学校等で学ぶ、基礎的な国語力と情報処理能力を身につけていること
（求める要素：知識・技能）

【生活ナビゲーション学科ライフケア専攻】

生活ナビゲーション学科ライフケア専攻は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 社会の出来事に興味を持ち、人と関わることが好きなこと。
〔求める要素：関心・意欲・態度〕
- 2) 高等学校等までの国語（読む・書く・聞く・理解する）を中心とした基礎学力を持っていること。
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕
- 3) ボランティア・部活動や学校行事に仲間と共にならねること。
〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕
- 4) 食べる、睡眠をとるといったような基本的な生活習慣の大切さを自覚し自己の健康管理に関心を持っていること。

[求める要素：主体性]

5) 自ら進んで挨拶し、人の話に耳を傾け、コミュニケーションがとれること。

[求める要素：意欲・態度]

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページにより公表 (<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/about/>)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	0人	—					0人
保育科	—	5人	4人	2人	0人	0人	11人
生活ナビゲーション学科	—	4人	3人	5人	0人	0人	12人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		72人					73人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：ホームページ http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/kaken.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
平成30年度については、以下のような取り組みを主に行った。							
(1) 教育評価方法の見直し							
平成28年度からルーブリック（評価項目と達成レベルで学習到達度を示したもの）を使った学習評価の導入に取り組み、全学で取り組んだ。30年度も継続してルーブリックの活用をさらに進めている。9月7日に実施されたFSD合同研修会においてもシラバスの記載内容について検討するとともに、その中で、ルーブリックを用いることでレポートや実演等のパフォーマンス課題の明確な評価が可能であることを教員間で確認した。							
(2) 学内授業相互参観							
平成30年11月6日（火）～12月7日（金）に各学科の選抜科目の学科別相互授業参観を実施。対象は専任教員・職員、非常勤講師を問わず公開した。授業参観後は、授業直後または別日程に開催される合評会で意見交換を行い、今後の授業改善に役立てた。							
(3) シラバス（授業計画書）作成に関する改善							
学生アンケートに授業外学習を行った時間に関する項目を加えると共に、シラバスに具体的な授業外学習の学習内容を明記するように求めてきた。平成29年度以降はこれに加えて、授業等で課した課題に対するフィードバックの有無と内容を記述するように求めた。同じく、学士課程教育の質保障のために、到達目標を測定可能な行動レベルで記述するように求めた。							
そして、平成28年度以降は、アクティブ・ラーニング（学生が能動的に学ぶことができるように授業を行う学習方法）を導入しているかどうか、ICT（情報通信技術）を活用しているかどうか、授業を英語で実施しているかどうかの3点を記入する欄を設けた。							
(4) ファカルティ・ディベロップメント委員によるシラバスチェック							
学科等のカリキュラム・ポリシーに基づくシラバスのチェックを各学科・専攻のファカルティ・ディベロップメント委員に依頼した。チェック項目は「授業概要」「授業計画」「目標達成のための授業方法」「成績評価の方法」等である。							
カリキュラム・ポリシーと照らしあわせて適切か、隣接する科目との内容重複などをチェックした。但し、全体の全項目における事務的なチェック及び資格関連等のチェック等については、従来どおり教務課で行った。							
(5) 学生による授業評価アンケートの活用と検証作業							
これまでの学生アンケートの結果は、各教員の授業改善の意識を高めるために、夏学期と冬学期の2回、担当する科目の中から1科目を選択し、専任教員では、第1期と第2期の2回に分けて実施してきた。教員個人が授業改革に取り組んだ結果として、リフレクションペーパー（授業改善報告書）の提出を求めてきた。また、FD委員にアンケート結果とリフレクションペーパーの一覧を配布し、各学科のカリキュラムの検討や授業改善に向けた資料として活用してきた。							
(6) FSD合同研修会							

平成 30 年 9 月 7 日（金）に全学の教職員が参加する FSD 合同研修会を実施した。アセスメント・ポリシーの説明やシラバス作成方法について報告し、教員間で共有化を図った。

平成 31 年 3 月 27 日（水）に全学の教職員が参加する FSD 合同研修会を開催した。前半は、短大の方針や短大の置かれている現状、今後の AI（人工知能）の発展に伴う教育改革等について講話が行われた。午後は、新任教員への研修や対応の内容についての報告後、教務部から特にシラバスの重要性と作成内容や方法について説明を行った後、令和元年度からの授業運営について確認を行った。そして、IR・戦略統合センターから新たに導入した e ポートフォリオ（学生の日々の学習や活動の記録を電子化したもの）、学内ポータルサイトに関連する新しい機能や出席管理方法について説明がなされた。加えて、学生支援センターからの障害のある学生への新たな支援方法、キャリアセンターからの学生の出口保障に向けたインターンシップ（企業等での就業体験）に関連する報告がなされた。

令和元年度以降に向けた短期大学の現状と課題を分析し、ICT を活用しながら、学生を育てることに重点を置いた新たな取り組みの報告を中心に実施され、教職員間で情報の共有を行った。

(7) FSD 報告書

平成 29 年度「FSD 報告書」は 7 月下旬に完成し、ホームページに公開した。また、大阪私立短大協会加盟 20 短大へ送付した。

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
保育科	120 人	116 人	96.7%	240 人	231 人	96.3%	0 人	0 人
生活ナビゲーション学科	120 人	132 人	110.0%	240 人	239 人	99.6%	0 人	0 人
合計	240 人	248 人	103.3%	480 人	471 人	98.1%	0 人	0 人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
保育科	132 人 (100%)	6 人 (5.2%)	123 人 (88.1%)	3 人 (6.7%)
生活ナビゲーション学科	136 人 (100%)	3 人 (2.2%)	113 人 (83.0%)	20 人 (14.7%)
合計	268 人 (100%)	9 人 (3.4%)	236 人 (88.1%)	23 人 (8.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先/四天王寺大学				
就職先/㈱ニッカトー、大阪南農業協同組合、岸和田市立保育所、四天王寺福祉事業団				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画(シラバス)作成にあたり、『シラバス作成ガイドライン』を全教員に配布し、さらに教職員研修会において「シラバスの作成方法」の研修を行い、理解を深めている。</p> <p>各授業科目については、学則上の位置づけおよび「学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)等を再確認のうえ、記載内容(授業概要、到達目標、授業計画、目標達成のための授業方法・履修上の注意事項、授業時間外に必要な学習、成績評価の方法、など)について検討し、シラバス作成を行うよう依頼している。</p> <p>シラバス作成後には、担当教員以外の第三者による組織的なシラバスチェックを行うため、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員によるシラバスの内容チェックを行い、教育の質保証に取り組んでいる。</p> <p>作成及び公表時期については、11月から12月にかけて授業計画(シラバス)を作成し、1月から2月にかけてFD委員によるシラバスチェックを行い、修正後3月末に公表を行っている。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>「単位の修得および試験に関する規程」の成績評価について(第11条-13条)において、試験方法・成績評価方法・基準(秀・優・良・可・不合格)等を定め、履修要覧に掲載し学生に明示している。</p> <p>シラバスには、各科目の成績評価方法等を具体的に掲載し、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与を行っている。また、学修意欲の把握については、短大等で独自に設定したものと担当教員の入力による出席状況を学修意欲の目安としている。</p> <p>本学の教育使命、養成すべき人物像、そのために求められる教育の基本姿勢を受けて、短大全体および各学科・専攻において「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」を定めている。さらに、ディプロマ・ポリシーに基づき、『卒業時点において学生が身につけるべき能力』および到達目標を定め、基礎教育科目・共通教育科目・専門教育科目の各科目に明示している。履修要覧・ホームページに掲載することで学生が2年間を通して計画的に学ぶことができるよう取り組んでいる。</p> <p>また、各学科等で定められた卒業要件について、個々の学生が到達しているかを教授会で審議し、卒業を認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)

	保育科	62 単位	⑦・無	なし
	生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻	62 単位	⑦・無	半期 30 単位
	生活ナビゲーション学科ライフケア専攻	82 単位	⑦・無	なし
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 : HP に公表 (リンク先 120 ページ参照) http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/taiouhyou/etc/4-t01.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 : ホームページにより公表 (http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/visualization.html) <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修時間 ・学生の満足度 ・学生の学修意欲 		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/map.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	保育科	837,000 円	300,000 円	320,000 円	施設拡充費、運営維持費
	生活ナビゲーション学科	837,000 円	300,000 円	320,000 円	施設拡充費、運営維持費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生支援センター所管のピアサポート「PIATA」において、所定の講習を終了した学生による後輩の各種手続きや相談受付、教員による国語と英語のリメディアル教育を行うなどしている。グローバル教育センターである i-Talk にて、海外研修・留学の支援を行っている。また、障害のある学生より申請があれば、他の者と平等に教育を受けるための合理的配慮の提供を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアセンターでは、民間企業、公務員、福祉施設、保育園・幼稚園希望者の進路支援を行っている。キャリア形成支援として「キャリア関連科目」を1年次から順次開講するとともに、学生の職業観醸成に有効かつ、就職に於けるミスマッチを防げる要因とされるインターンシップの参加を積極的に推進している。また、保育職や福祉職就職希望者は、授業にて専門的知識や技術を修得できるようにカリキュラムを設置。学生の希望に沿った職業選択の実現を目指している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健センター、学生相談室を設置しており、学生の健康を管理している。定期健康診断は、学生の健康状態の把握、様々な疾患の予防と早期発見に役立っている。また、体の不調や気になる症状について校医・保健師・看護師が随時相談に乗っている。学生が怪我をした時の対応や、体調不良時の休養も受け入れている。学生相談室では、対人関係をはじめ、心理的な悩みや性格に関する様々な事柄について専門のカウンセラーが相談に応じている。 他にも、卒煙としてニコチンパッチやカウンセリングで禁煙希望者のサポートを行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：HP に公表 (<https://shitennojiuniversity.repo.nii.ac.jp/>)